



第52号
令和6年1月
〒963-7845
福島県石川郡石川町
高田271
曹洞宗高源山長泉寺
Tel・Fax 0247-26-2009



謹賀新年

本年もよろしくお願ひ申し上げます

令和六年 元旦

長泉寺住職 西川一英 合掌



寺報をもって新年のご挨拶に代えさせていただきます

太祖瑩山紹瑾禪師七百回大遠忌

今年、曹洞宗の二つの本山のうち総持寺（もう一つは永平寺）を開かれた瑩山禪師（けいざんぜんじ）さまが亡くなられて七百年にあたります。

曹洞宗では十年前から宗門をあげその徳を讃える報恩法要（大遠忌）を実施するために、大本山総持寺（横浜）・能登祖院（横浜総持寺の前身）の整備を進めてきました。具体的には歴史ある木造建築の伝統美を壊さない耐震工事や人権を重視したバリアフリー化などの諸堂整備、また瑩山さまの教えを多くの方々に知っていただくための布教教化事業です。そのための総事業費・六十七億円は全

国の曹洞宗寺院が負担、当長泉寺からは約九十五万円を協力しました。

昨年十一月、福島県の予修法要がパルセ飯坂で開催され、県内各地から各寺院住職・護持会長・寺族が約五百人参加して瑩山さまを偲びました。

イスラエル・パレスチナ紛争やウクライナ戦争など世界の現状には暗たんたる気持ちになります。瑩山禪師の生きた時代も決して平安な時代ではありませんでした。大遠忌のこの機会に、混迷の今に生きる私たちも瑩山禪師の教えから光を見つけていきたいと思えます。



太祖瑩山紹瑾禪師700回大遠忌福島県予修法要

南條光彦さん修行を終えて帰山 今後への抱負を語る

令和五年一月十五日。可睡齋専門僧堂での修行に区切りを付けて送行（僧堂を去ること）して参りました。それから約一年が経ちます。いまは、娑婆に生きる僧侶として一人前になるための勉強をしている真つ最中です。

年間、連綿と嗣がれてきた教えを戴くことへの感謝と仏弟子としての責任の重さを感じると同時に僧侶として生きる心構えや所作、戒名の付け方など僧侶としての嗜みを一英師匠から一對一で教えていただいたことに今後、僧侶として活動していくことへの意気が上がる思いをしました。

そして五月「和尚」という立場になることが出来た。前職を離れて二年二か月。一英住職、兄弟弟子晃平師、そして仕事を辞め修行にいくという突拍子もない行動を理解し支えてくれている家族・親族。これまでいただいた温情に報いる為にも、僧侶として一人でも多くの方の何かお役に立てるように一所懸命に精進する所存です。



可睡齋法戦式南條家の皆様と

大本山総持寺での瑞世

不動産（宅地）を寄付されました 感謝申し上げます

お檀家の佐々木光治さんから（志）長泉寺に対し、矢ノ目田地区にある不動産を寄付したいとの申し出がありました。お母さんアキイさんが所有している宅地・一六三平方メートルですが、お母さんの意志によるとのこと。ありがたくその申し出をお受けしました。境内墓地に隣接している場所のため、今後有効利用できると思えます。



上母畑地区に伝わる巨大数珠

この数珠は上母畑地区（七森・堀ノ内・滝ノ平）に昔から伝わる八m超の巨大数珠です。毎年秋彼岸の一日、地区の方々が当番の家を集まり車座になって数珠繰り（じゅずくり）をしました。数珠繰りの行事は元々全国各地で行われていた伝統行事ですが、多くが近代化の波と過疎化により消滅してしまいました。上



母畑地区でもコロナ前まで行われてましたが、二十軒以上あった家も十数軒となり伝統継承も難しいとの判断から地区の皆さんによりお寺に寄付されたものです。数珠繰りの多くは念仏を唱えながら、家内安全・五穀豊穡を願い、また死者の冥福を祈りながら回しましたが、ここ上母畑地区では百八回回すしきたりでした。終わると持ち寄りのお料理で懇親会。古き良き時代の人々の心をつなぐコミュニケーションの象徴でした。